

はじめに

市民一人一人が郷土に誇りと愛着を持って後世に語り伝えるため、郷土や文化財の成り立ち、歴史を学び、そこに息づく景観、地域、人を守る構想としたい。こんな思いから、「上越市歴史文化基本構想」を策定しました。

少子高齢化や中心市街地の空洞化、地方の過疎化など、社会構造の大きな変化の中で私達の伝統的な暮らしや懐かしい風景が失われています。文化庁では、文化財を単体ではなく周辺環境も含め保存活用する方策を探るため、平成20年度から3か年にわたり全国23市町村に文化財総合的把握モデル事業を委託し、地域の実情にあった「歴史文化基本構想」の策定を求めました。

これを受け、上越市では歴史文化基本構想等策定委員会を設置し、地域を守り、地域で文化財を守る方法について議論を重ねました。地域の中で生まれ伝えられた文化財を地域住民が知り、地域が元気になるために文化財をいかし、地域が元気になることで文化財が守られる仕組み、すなわち文化財を守る「人や地域」を育むことで、地域が活き、文化財が生きることを目指します。

私達のふるさと上越市は、海から山まで多様な自然環境がそろい、縄文時代から平成まで連綿と続く歴史を持っています。こうした豊かな土壌から、たくさんのたからもの（文化財）が残されています。

市民がこの豊かなふるさとをよく知ることで誇りと愛着が生まれ、地域の元気と魅力を育てます。それが発信や交流などの活動を通してまちづくりや観光などに活かされ、さらなる活力となります。魅力あふれる上越市を次代へ確実にバトンタッチするために、この構想が役立つことを願っています。

平成23年1月